
研究ノート

「愛知県不審者情報」から見える「不審者」像

清水 裕 樹

目次

1. はじめに
2. 辞書にないことばとしての「不審者」
3. 「愛知県不審者情報」掲載データを読む
4. 「不審者」の姿と行動
5. おわりに

1. はじめに

「不審者」とは誰か。私自身がこの問題に向き合ったのは、およそ2年前のことであった。平成28年度より、教員免許更新講習の講師を務めることとなり、テーマ選定に困っていたところに、「これならできそうだ」と思いついたのがこのテーマであった。

社会において好ましくない行為のなし手である不審者は、講習の受講者のほとんどを占める幼稚園及び小学校の教諭の方々にとり学校安全上考慮の必要なテーマであることは勿論であるとともに、私自身の研究分野に属する犯罪原因論の領域に含まれるものでもある。そこでこれまでの文献を当たってみたが、手短に調査した限りでは、不審者事案にどう対応するかについてのものが多いようであった。他方で、そもそも「不審者とはこのような人物だ」という視点からなされているものは、きわめて限られているように見受けられる¹。そこで私は、

愛知県警察が主にスマートフォン等の携帯端末向けに発信している不審者情報を掲載したサイト「愛知県不審者情報」(<http://patnet.jp/>)に掲載された情報データをもとに、愛知県における不審者事案から見える「不審者」の姿を提示することを目指した。なお、平成 28 年度の講習（8 月 24 日実施）では、講習が実施された 2016 年 8 月上旬のデータをサンプルとし、平成 29 年の講習（8 月 24 日実施）では、調査対象となる事案の範囲を拡大し、2016 年の 1 月、4 月、7 月、10 月のデータをサンプルとした。

本稿では、これら 2 年間ににおける教員免許更新講習の内容を踏まえ、とくにデータとしては、平成 29 年度の授業で用いた、2016 年のほぼ冬、春、夏、秋の時期を代表する愛知県の不審者事案データをもとに²、今時の愛知県内における不審者と彼らによる事案のあり方について示すことを目指す。

2. 辞書にないことばとしての「不審者」

前章において、「不審者」の人物像を明らかにする研究が少ない点について言及したが、そもそも「不審者」がどのような人物であるかということについての共通した理解や意味認識があれば、そのような研究など不要である。ではそのような理解や意味認識が存在するのかというと、どうもなさそうである。

現代の日本語辞書としては最大級のものの一つと考えられる、『日本国語大辞典』の第二版を調べると、「ふしんしゃ」に対応する語としては「土木工事をする人夫、また、その工事に人夫を出させる大名・御家人など」を意味する「普請衆」の同義語としての「普請者」が見当たりに過ぎない³。ちなみに、「不審」の意味としては、「①（形動）細かい点まではよくわからないこと。はっきりしないこと。また、そのさま；②（形動）（～する）疑わしく思うこと。疑惑をさしはさむ

こと。いぶかしいこと。また、そのさま；③謀反・悪事などの疑い。嫌疑。不興；④（形動）おぼつかないこと。不安であること。また、そのさま；⑤禅家で、「ご機嫌いかがです」くらいの意味で用いられる挨拶のことば」という5種類の意味が示されている⁴。

他の情報源として、まずは時事用語関係の参考資料を当たってみたが、本学図書館所蔵の自由国民社編の『現代用語の基礎知識』を見る限り、最新の2018年版には見当たらず、大阪教育大学附属池田小学校事件が起きたほぼ直近であり、「不審者」に対する社会の関心が高い時期と思われる2002年版、2003年版にも、「不審船」の見出しはあるものの、「不審者」の見出しを見つけることはできなかった⁵。また、web上で利用できる参考資料類の横断データベースであり、本学図書館が契約している"JapanKnowledge.lib"でも、「不審者」の語を検索したが、コンテンツとしては『プログレッシブ和英中辞典』の、対応する語としては"a suspicious person [character]"が認められるに限られた⁶。

このような状況を考えると、「不審者」という語は、それとして日本語として共通認識の（確立されてい）ないことばであると考えられそうである。なお、他にも若干の辞書類に当たった中では、一風変わった語義が掲載されていることに定評のある⁷、『新明解国語辞典』における「不審」の意味が参考になりそうである。それによると、「見聞きした物事などについて、どうしてそうなった（である）のか納得できず、何か隠された（良くない）事情があるのではないかと疑いをいだくこと（様子）」⁸とある。この意味と、上述した『日本国語大辞典』における「不審」の意味①を参考にすると、「不審者」はおそらく、「よくわからないが、何か良からぬことをするのではないかという疑いをいだかせる人物」というところとなろうか。

3. 「愛知県不審者情報」掲載データを読む

続いて、web サイト「愛知県不審者情報」に掲載された、「不審者」とその人物による事案について見ることにしよう。「不審者」が、その語の意味自体からして、「よくわからない人物」であるものの、ともかく「不審者情報」が公開されていることから、何らかの形でその人物と行為とは認知されているようである。では、その人物と事案とが認知される過程はどうなっているのだろうか。「愛知県不審者情報」の web ページには、「愛知県内及び名古屋市内の不審者情報をスマートフォンや携帯端末向けに公開します」という説明があるにとどまり、関連する愛知県警察の web ページ「パトネットあいち」(<https://www.pref.aichi.jp/police/mail/>)を見ても、「次の5種類のメールを愛知県内の警察署から配信します。1.『不審者情報』子どもや女性等に対する声かけやつきまとい事案等」とあるにとどまっている⁹。そこで、他県の警察や自治体の状況について web 上で得られる情報を確認したところ、千葉県警察の例として、「県民の皆さんから各警察署に寄せられた『声かけ』事案などの不審者情報の一部を、県警ホームページの『不審者情報マップ』として掲載しています」との記載が認められた¹⁰。また、栃木県真岡市の web ページには、「不審者情報マップは、地域の皆さんや学校関係者等の皆さんから警察に寄せられた『声かけ』、『不審車両』、『つきまとい』、『痴漢、露出行為等』などの情報のうち、地域の皆さんで注意や警戒を図っていただきたい事案を掲載しています」¹¹との記載を認めることができた。これらの記載における共通した点をもとに、被害者等による通報に基づいて「不審者情報」が出来上がるまでには、次の①②という2段階をたどっているものと考えられる。これらの段階のそれぞれで、情報には解釈が加えられている。

①被害者自身、または事案を見たり相談を受けたりした保護者、地域住民や学校関係者等が「声かけ」「つきまとい」などの被害を警察に通報する（「不審者」による被害を受けたという被害者における解釈、被害者の遭遇した事案が不審者による行為であろうという通報者の解釈）。

②通報を受けた警察が事案の内容を判断し、地域の人々が気をつける必要のあると思われるものにつき、「不審者情報」としての配信を行う（事案が「不審者」によるものであるという警察官の解釈、「不審者」による事案を公表・配信する必要性についての警察官の解釈）。

「愛知県不審者情報」が同一の過程ででき上がっているかどうかについては情報を得ていないため明らかではないが、ほぼこのような過程を経ているものと推測される。つまり、少なくとも通報者と警察官による解釈の結果として、配信される「不審者情報」が構築されていると言えそうである。特に警察配信情報であることを考えると、通報される事案から配信情報を選別する警察官が、事案の行為者の「不審者」性を最終的に決定づけていると考えられる。

それでは、今時の愛知県における「不審者」とは、また彼らによる事案とはいかなるものであろうか。2016年の1月、4月、7月、10月に「愛知県不審者情報」のwebページに配信された情報をもとに示してみよう。

「愛知県不審者情報」の発信データ数は、4か月分で合計894件（うち1月161件、4月212件、7月280件、10月241件）であり、行為者のデータ数は、914名であった¹²。

全事案／行為者データを対象にその属性を見てみよう。

①曜日ごとの件数

曜日	4 か月合計	1 月	4 月	7 月	10 月
月	119 件	15 件	32 件	39 件	33 件
火	130 件	22 件	32 件	38 件	38 件
水	138 件	29 件	33 件	41 件	35 件
木	149 件	31 件	26 件	54 件	38 件
金	160 件	34 件	43 件	40 件	43 件
土	101 件	13 件	28 件	31 件	29 件
日	101 件	17 件	18 件	41 件	25 件

1 か月単位のデータであり、曜日ごとの日数に違いがある（月曜日 17 日、火曜日 16 日、水曜日 16 日、木曜日 16 日、金曜日 19 日、土曜日 20 日、日曜日 19 日）が、全般的に土曜日、日曜日、月曜日の件数が少なく、木曜日金曜日の件数が多いように見受けられる。なお、土曜日日曜日については、絶対的な日数が多いにもかかわらず、件数が少ないことが目立つ。特に 1 月は、2 日が土曜日 3 日が日曜日と、年頭の時期を含むとは言え、それぞれ 5 日ずつあることを考えると、発表件数の少なさが目立つ。

②時間帯ごとの件数

時間帯	4 か月合計	1 月	4 月	7 月	10 月
0～2 時 ¹³	44 件	3 件	8 件	25 件	8 件
3～5 時	12 件	1 件	3 件	5 件	3 件
6～8 時	98 件	19 件	25 件	30 件	24 件
9～11 時	42 件	6 件	9 件	18 件	9 件
12～14 時	87 件	15 件	29 件	22 件	21 件
15～17 時	251 件	48 件	65 件	67 件	71 件
18～20 時	218 件	42 件	43 件	68 件	65 件
21～23 時	136 件	23 件	28 件	46 件	39 件

全体として午後、とりわけ 15 時台以降の件数が多い。相対的な件数の増減の様子を見ると、午前中では、登校・出勤時間帯に相当する 6 時から 8 時台までが、午後では小学校から高等学校の下校時間帯に相当する 15 時から 17 時台と、仕事帰りの時間帯に相当する 18 時か

ら 20 時台までの件数の多さが目立つ。午後では遅めの時間帯である 21 時台以降も、特に日の長い 7 月においてはかなり件数が多い。他方で、被害者も行為者も寝静まっているのか 3 時から 5 時台は顕著に少なく、また授業や仕事の時間帯であるせいか、9 時から 11 時台も比較的件数が少ない。

③行為者の年齢層

年代 ¹⁴	4 か月合計	1 月	4 月	7 月	10 月
10 代	22 人	6 人	2 人	7 人	7 人
20 代	197 人	32 人	45 人	70 人	50 人
30 代	209 人	34 人	45 人	68 人	62 人
40 代	151 人	25 人	33 人	49 人	44 人
50 代	79 人	15 人	21 人	22 人	21 人
60 代	43 人	11 人	11 人	11 人	10 人
70 代以上	14 人	2 人	2 人	1 人	9 人

行為者の年齢層について見ると、30 代に属する者が最も多く、20 代 40 代がそれに続く。その他の年代の者は、これらの年代と比較するとかなり少ない。とりわけ、10 代は被害者として扱われることの方が目立ち、行為者として数えられる者は非常に少ない。

④行為者の性別

性別	男	女	不明
人数	892 人	7 人	15 人

行為者の性別について見ると、圧倒的に多数であるのは男性であり、女性は 1% にも満たない。「不明」のものによる事案の中には、例えば浴室などにスマートフォンなどをかざしての盗撮などが認められる。

⑤行為者の身長

身長 ¹⁵	4 か月合計	1 月	4 月	7 月	10 月
170cm 未満	218 人	45 人	50 人	75 人	48 人
170cm 以上	285 人	51 人	64 人	87 人	83 人

若干古いデータではあるが、総務省統計局 web ページに掲載されている、「日本の統計 2015」に収録されている、平成 24 年の 20 歳以上の日本人男性の平均身長が 167.3cm であった¹⁶ことも踏まえ、それを超えるきりの良い数字として 170cm 以上の身長とされる行為者の人数を調べてみた。行為者の身長について見ると、いずれの月でも 170cm 以上の者が上回っていた。この結果はしかし、平成 24 年の日本人男性の身長について、20 歳から 49 歳までの年齢層でいずれも平均身長が 170cm を超えていたこと、またこの年齢層に多くの行為者が含まれることを考えると、特に不思議なものではない。

⑥行為者の服装

服装	4 か月合計	1 月	4 月	7 月	10 月
スーツ・制服等 ¹⁷	43 人	7 人	8 人	18 人	10 人
カジュアル等 ¹⁸	511 人	89 人	127 人	171 人	124 人
奇異なもの	28 人	4 人	8 人	9 人	7 人

服装については、学生服様、スーツ様の服装といった、フォーマル寄りの服装は少なく、カジュアル寄りの服装が目立つ。他方で「奇異な服装」は、特に行為者の外見についての描写中、奇異なものに限定した。そのため、事案が露出である場合にも、必ずしもこの項目に含まれていない場合もある。

⑦外国人

表は作成しなかったが、データ上外国人であるように見えた行為者のデータ数は 23 人で、全行為者データの中に占める比率では 2.5% であった¹⁹。

⑧身元を隠す装身具

身元を隠す装身具	帽子 ²⁰	サングラス	マスク
人数	164 人	31 人	66 人

検索サイトの画像検索機能を用いて「不審者」と検索すると、帽子・サングラス・マスクを装着した男のイラストが比較的多数上位にヒットする。行為者の人物描写においてこれらの装身具が認められる者をピックアップしてみたが、結果として見るとそれほど多数の者がこれらの装身具を身に着けているわけではないということが認められた。

次に、事案の行為が向けられた被害者について、ごく簡単に見ておきたい。

被害者の属性	人数
男	56 人
女	684 人
児童	231 人
生徒	258 人

被害者の性別を見ると、予想通りではあるが女性の方が顕著に多い。なお、男性も成人と認められる者はほとんどおらず、児童、生徒の順に多い。児童と生徒という種別を見ると、生徒の方が多い。より行動範囲が広く、保護者等からは独立して行動することがより多いからだろうか。他方で女性については、成人が被害者となる事例も少なくない件数で認められるようである。

続いて、行為について見てみよう。

①主要な事案の件数（月別）

月	件数最多	件数 2 番目	件数 3 番目	件数 4 番目	件数 5 番目
1 月	身体接触(53)	声掛け(44)	露出(43)	後つけ(28)	撮影(13)
4 月	声掛け(65)	露出(63)	身体接触(57)	後つけ(31)	撮影(16)
7 月	露出(90)	身体接触(84)	声掛け(67)	後つけ(37)	撮影(24)
10 月	露出(67)	身体接触(67)	声かけ(63)	後つけ(44)	撮影(15)

比較的多く見受けられる事案の 5 種類について、月ごとの順位と件数とを示した。特に温暖な時期に多い露出、どの時期もコンスタントに多い身体接触²¹、春に多い声かけは、どの月でも上位 3 位に顔を出

す。それに続くのが後をつけたりつきまったりする事案で、最後にとりわけ近年における携帯端末の静止画及び動画撮影性能の向上に伴うものであろうが、撮影の事案が特に着衣が薄くなる時期を中心に認められる。

②特に気になったいくつかの事案

データの紹介を終えるに当たり、特に目についたいくつかの例を紹介したい。

a) 1月

<事案1> 13日17時30分ころ、あま市七宝町にて、黒いコートを着た、60代の頭の禿げた男が、女子児童に対し、「お嬢ちゃん、お金ちょうだい」と声を掛けた²²。

「声かけ」の1例。寒く暗い時期であることから、声をかけられた女兒の側からすれば、「怖い／不安を覚える」ものであることは間違いないが、冷静に文脈を追うと、世の中の佻しさも見え、「不審者」への同情も覚えなくはない。

<事案2> 16日8時15分ころ、名古屋市瑞穂区十六町にて、20代の男が、茶色のセーターの下に風船のようなものを仕込み、登校中の女子生徒に対しボディビルダーのようなポーズをした²³。

「奇異な服装」の1例。たしかに不審な事案ではあるが、安全情報として警戒が必要であるかという点、疑問も覚える。

b) 4月

<事案3> 9日11時40分ころ、犬山市塔野地にて、30歳位の痩せ型で、頭に赤いバンダナを巻いた全裸の外国人風の男が、男子生徒に「ヘイ」と声を掛けた²⁴。

男子生徒が被害者となった、露出＋声かけ事案の1つ。地域の中学

校に通う生徒だろうか。お気の毒ではある。

<事案4> 28日14時10分ころ、豊田市大島町にて、白Tシャツとクリーム色のズボンを身に着け、黒眼鏡と白マスクをした、20から30歳位の男が、カッターナイフを手に、下校中の女子生徒を背後から羽交い締めにし、「言うことを聞け」と脅した²⁵。

女子生徒に対する身体接触（暴行）＋粗暴な声かけ（脅迫）の1つ。単なる不審者の事案というよりも、未成年者略取や性的暴行などにつながりうる極めて悪質性の高い種類の事案である。

<事案5> 29日12時30分ころ、名古屋市緑区桶狭間にて、黒髪を七三分けにし、灰色の長袖パーカーと灰色のスウェットを身に着けた20代位の男が、ベランダに干してあるズボンを触っていた²⁶。

行為について分類不能な事案の1つ。盗む意図がうかがわれたのであれば、おそらく「盗もうとした」などと記されるであろうことから、洗濯物のズボンを単に「触っていた」のだろう。行為者の心身の健康が気になるところである。

c) 7月

<事案6> 4日20時ころ、安城市桜井町にて、白のワンボックスカーに乗車した男3人のうち、黒系の服を着てマスクをした男が、男子生徒に対して「欲しい物を買ってあげるよ」と声を掛け、車に連れ込もうとした²⁷。

男子生徒に対する声掛けの事案の1つ。未成年者誘拐につながる悪質なものである。このように、件数は多くないものの、男子も10代の児童生徒の場合、被害者となるケースが認められる。

<事案7> 20日20時ころ、名古屋市瑞穂区大殿町にて、20代くら

いでやせ型の中東系または東南アジア系の外国人風の男が、月極駐車場内の自動車を片端からスマートフォンで撮影した²⁸。

人以外が被写体である意味において、撮影の事案としては例外的なものの1つ。組織的窃盗団の1人か、それとも何かの資料としての撮影か。駐車場に車を停めている所有者としては不安を覚える事案であろう。ただし、いわゆる「テロ等準備罪」の条件を満たしていない限りは、気分の良くない行為であるにとどまり、犯罪性はない。

<事案8> 21日10時ころ、安城市桜井町にて、20から30歳で黄緑色の上衣を身に着けた（他は不明）黒い短髪の男が、アパートのベランダに干してあった下着を盗んだ²⁹。

下着泥棒の事案。実は今回調査した事案では他に類例がない。街頭犯罪の一つとして、注意を喚起する目的からの不審者情報としての掲載であろうが、掲載基準の統一性を考えると、かえって「不審者」イメージの混乱につながらないだろうか。

<事案9> 21日19時50分ころ、みよし市明知町にて、身長170cm位で上下黒っぽい色の服を着た、20代位の男が、ウォーキング中の女子生徒に背後から近づき口を塞いだ上、「殺すぞ」と声を掛けた³⁰。

女子生徒に対する暴行+粗暴な声掛けの1つ。これも単なる不審者の事案というよりも重大犯罪につながりうる、特に悪質性の高い事案と言える。女子生徒の口を塞ぐ事案はさほど珍しいものでもなく、今回調査した中でも3件見つかっている。

<事案10> 29日21時40分ころ、名古屋市千種区光が丘にて、上下黒っぽい服を着た、身長180cm位のがっしりした30代の男が、帰宅途中の男子中学生らに近づき、臭いを嗅いだ³¹。

男子生徒を被害者とする、分類不明な行為の事案である。具体的な

行為態様が不明であるものの、異様な感じを受ける。何がしたかったのだろうか。

d) 10月

<事案 11> 20日16時50分ころ、名古屋市南村区稲西町にて、白い自動車に乗った短い金髪の20から25歳の男が、下校中の女子生徒に「パンツ見えてるよ」と声を掛けた³²。

女子生徒に対する声掛けの事案の1つ。言い方がぶっきらぼうなこともあり、確かに女子生徒としては20代前半に見える金髪の男から言われるのは恥ずかしい（苛立たしい）言葉であろうが、状況によっては注意されないことでもっと恥ずかしい目に遭った可能性も無くはなかっただろうか。

<事案 12> 21日21時ころ、豊橋市弥生町にて、黒のジャンパーに色不明の長ズボンを履いた、50代前半くらいで小太りの、髭を生やした丸顔の男が、ランニング中の男子生徒を小走りで追いかけてきた³³。

男子生徒を被害者とする、後つけの事案の1つ。時間帯が遅いことが不安を喚起したことだろうが、それほど不安を感じさせるような走りだったのだろうか。不審者の年齢格好を考えるに、男子生徒の体力であれば相手にせず引き離すことはできなかったのだろうか。

<事案 13> 22日22時40分ころ、名古屋市名東区藤が丘にて、10代から20代くらいのしろの長袖と白っぽいズボンを身に着けた、肩までかかる金髪のような頭髪のやせ型の男が、歩行中の男性の所持していたバッグをひったくり、徒歩で逃走した³⁴。

明らかに成人男性が被害者として特定されているものとしては、今回調べたデータでは唯一といってよい事案。ひったくり（窃盗）とい

う路上犯罪の事案であり、この点でも類例がない。時間は遅いとは言え、男性が歩いて逃げるひたくり犯人に追いつけないというのはいかなる状況だったのだろうか。酩酊でもしていたのだろうか。その割には、行為者の姿がある程度見えていたようだが。

<事案 14> 29 日 9 時 50 分ころ、みよし市明知町にて、身長 170cm くらいで、中肉の黒髪の 20 から 30 代くらいの男が、全裸で畑を徘徊した³⁵。

露出の事案である。特定の被害者を出す意図はなさそうであるが、この男に何があったのだろうか。

<事案 15> 31 日 18 時 20 分ころ、名古屋市守山区中志段味にて、自転車に乗り、赤と黒の混じったジャージ上衣と黒いズボンを身に着けた、身長 170cm くらいで中肉の、目のパッチリとした男が、下校中の女子生徒に「写真を撮って欲しい」と声を掛けた³⁶。

女子生徒に対する声掛けの事案の 1 つ。10 月末の 18 時 20 分といえ、暗いとは言える。写真を撮られるのには特に準備はいらない（逆に気の抜けている姿を撮影されてしまう危険は有るが）が、写真を撮影する場合、女子生徒の携帯端末での撮影を求めるならば、アドレシの交換を求められるかもしれない、男の携帯端末またはデジタルカメラでの撮影を求めるならば、そのスキを突かれる可能性がある。不安を招く不審な行為であると言えるが、撮影するのではなく、撮影を求めるという意味において珍しい事案である。

以上が、事案を調べる中で目についた事例のいくつかである。露出の事例などで服装の奇異さで目立つものは他にもあるが、ここでは紹介しなかった。なお、これ以外の「ありふれた」事例も、多かれ少なかれ被害者にとっては不安や恐怖を覚えさせるものであり、そのうち

のいくつかは、それ自体が軽微ではない犯罪であったり、より重大で深刻な犯罪の未遂であったり予備であったりする。この場で一つ一つの事案を紹介する紙数はないが、興味のある方は一つでも良いので「愛知県不審者情報」に掲載されている事案にあたっていただきたい。

4. 「不審者」の姿と行動

前章で見た「愛知県不審者情報」のデータをもとに、繰り返しとなるが「不審者」の姿と行動について再構成したい。

「姿」については、①20代から40代までの男性が多くを占める、②週の後半の平日（木曜日金曜日）に行動する人が多い、③15時代以降人々が寝静まるまでの時間帯に行動する人が多い、④平均並みの身長を有する行為者が多くを占める；⑤外国人比は人口全体よりも低い、⑥服装は、カジュアルな装いや作業服様の装いが多く、スーツなどは少ないものの、奇異の感を抱かせたり、明らかに不潔な感じを抱かせたり³⁷するような服装の事例はそれほど多くない。

「行動」については、概ね露出、身体接触、声かけ、後つけ、撮影の順で多い。数は多くないものの、一方では略取誘拐等の重大犯罪につながりかねない、犯罪性の高い悪質な事案があり、他方で行為者の意図を理解するのに困惑するような、意味不明な事案もある。

「行為者の属性」としては、平日午後にスーツを着ること無く外出する、しかし明らかにホームレスであるようには見えない若年・中年男性であり、すでに注で引用した芹沢一也氏が、「地域防犯活動の行き着く先」に描き出した不審者像とは若干の相違は見せるものの、「『普通の人』とは異なる生活リズムやスタイルを持つ」という点、また一定割合において知的・精神的な障害を有することが疑われるような人々を含む点において、一致を見せる。

行動の面では、その多くがそれ自体について、重罪とは言いかねる

ものの、刑罰法規違反として処罰しうる性質を有している。ここでは、類型的に多い5種類である、露出、身体接触、声かけ、後つけ、撮影について見ておこう。

露出については、性器の露出がある場合は、公然わいせつ罪（刑法174条）により、「六月以下の懲役若しくは十万円以下の罰金又は拘留若しくは科料」で処罰されうるとともに、露出する部位が尻やももであった場合には、軽犯罪法1条20号で「拘留又は科料」で処罰される可能性がある。

身体接触については、態様によるが、一般的には暴行罪（刑法208条）により、「二年以下の懲役若しくは三十万円以下の罰金又は拘留若しくは科料」で処罰される可能性がある。また、他方でいわゆる「痴漢」的な行為（公共の場所又は公共の乗物において、故なく人を著しくしゅう恥させ、又は人に不安を覚えさせるような方法で、人の身体に、直接又は衣服その他の身に付けるものの上から触れる）があった場合、愛知県の「公衆に著しく迷惑をかける暴力的不良行為等の防止に関する条例」（以下、「愛知県迷惑行為防止条例」と略する）の2条2項1号違反となり、「六月以下の懲役又は五十万円以下の罰金」により処罰される可能性がある。

声かけについては、声かけ一般を処罰する法令・条例はないが、言動の内容が「卑わい」である場合については、愛知県迷惑行為防止条例2条2項3号違反となりうる（法定刑は「六月以下の懲役又は五十万円以下の罰金」）。

後つけについては、軽犯罪法1条28号（他人の進路に立ちふさがって、若しくはその身邊に群がって立ち退こうとせず、又は不安若しくは迷惑を覚えさせるような仕方他人につきまとう）違反として、「拘留又は科料」で処罰される可能性がある。

撮影については、「衣服等で覆われている人の身体又は下着を撮影する」ことを禁じる愛知県迷惑行為防止条例2条2項2号（法定刑は

「六月以下の懲役又は五十万円以下の罰金」）に違反する可能性がある。

このように、「不審者」による事案の多くが、同時に刑罰法規違反として捜査の対象となりうることから、警察が不審者の事案の通報を人々から求め、積極的に情報を配信しているともいえるが、このような警察と地域の人々との関わり合い方は、「子供たちが安心・安全に暮らせる社会を実現するべく」、「不審者」の発見と排除とに人々の関心を掻き立てる、芹沢一也氏の言う「ホラーハウス社会」³⁸の様相を呈してしまっているのではないか、という疑いも抱かせる。

5. おわりに

以上に、愛知県警察の情報発信 web サイト「愛知県不審者情報」の掲載された、2016 年の 4 か月分の不審者データから見える不審者像を紹介した。本稿のもととなった教員免許更新講習では、受講者の皆さんから「不審者」に対するイメージや「不審者」対策についてのコメントを小レポート課題として寄せていただいた。受講者の皆さん自身や周囲の同僚の方々などが、自ら「不審者」の被害に遭ったり、職場であるところの幼稚園や小学校で、さすまたなどの道具を手に「不審者」侵入を想定した訓練を行ったりといったエピソードを寄せてくださった。本稿の著者である清水は、まず「不審者」の被害に遭う側とはならない（むしろ仕事でも滅多にスーツなどを着ず、授業のない日には昼間から出歩くことも多いことから、立ち居振る舞い次第では容易に「不審者」扱いされる側である）、40 代の中年独身男性であり、普段は授業でも男子比率が非常に高い学生たちを多く相手にする日々を送っているように、不審者事案の被害は「他人事」であり、「怖い」という実感を抱きようがないというのが実際のところであった。そのためにも、「怖い人」としての「不審者」像についてのイメー

ジを抱かせて下さったという点において、コメントを下さった幼稚園や小学校の先生方³⁹⁾には深く感謝するところである。

「不審者」としてラベリングされる人々の行動が、ときに取り返しのつかない被害をもたらすこと、被害者が何の落ち度もない、正真正銘の被害者であることも少なくないこと、これらの事柄は常に心に留めておかねばならない。しかし、他方で「不審者」もまた弱者であるという側面を有している⁴⁰⁾。女性や子供への被害は、発生すればより深刻であり、もしも軽率さや「落ち度」が被害者にあったとしても、それが加害行為を許されるものとするなどということはいない。しかし、これらの人々への被害は、社会の同情を呼び起こし、心ある人が手を差し伸べてくれる可能性もある。

他方で、「不審者」とラベリングされる男性は、排除され、行き場を失うことも少なくない。彼らに弱さや選択の誤りなどがあってもいいが、それでも彼らも行きていかなければならず、彼ら以外の人間は彼らと共存しなければならない。彼らによる行為は、たとえそれが犯罪に該当するものであったとしても、せいぜい短期間の自由刑、すなわち社会からの隔離をもたらすものであるに過ぎない⁴¹⁾。「不審者」とラベリングされた人々の行為の中には、暴力を振るう、無遠慮な視線やカメラの眼差しを向けるなど、弁解のできない、または困難なものも少なくないが、本稿第3章の最終部分に紹介した個別事案の幾つかのような、単に受け手の困惑を引き起こした事案が「不審者による事案」としてラベリングされ、ラベリングされることにより、行為者が「不審者」としての自己認識を形成し、社会からの排除を受けることもあってさらに行動がエスカレートする、ということもあるだろう⁴²⁾。それをいうならば、本稿での試み自体が、「不審者」とラベリングされる方々への偏見を招き、排除へのきっかけとなってしまったのかもしれない。そのようなことがあれば、素直に反省したい。しかし、叶うことならば、不幸にして他人への困惑を与えてしまったも

の、故意での害を与えるに至っていない者が、安易に「不審者」としてラベリングされることのない社会が訪れることを望みたい。

注

- 1 例えば、安井義和「奈良県における不審者情報の5ヶ年経年変化の分析：2006年～2010年」『大阪教育大学紀要・第4部門，教育科学』61巻2号2013年209～220ページのように、不審者情報のデータをもとに、その現れ方の特徴を示し、特に学校安全に寄与しようというものは、本稿執筆においても大いに参考となった。むしろ、不審者の人間像に迫るものとしては、子供の生命や安全を守るという題目のもとに行われる地域防犯活動の問題点を批判しつつ、「生活時間帯が多くの人とは異なる職種の間、失業者やホームレス、精神障害者や知的障害者、在日外国人など、『普通の人』とは異なる生活リズムやスタイルを持つ人びと、結局はこうした者たちが不審者と見なされるのだ」という見解を示す、芹沢一也による研究が挙げられよう（芹沢一也「地域防犯活動の行き着く先」浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会 誰もが「不審者」？』光文社新書2006年）。なお、公刊の時期では若干後（初出2007年1月）である、「暴力の排除が生み出す厳罰社会」において、芹沢は、「不審者とは誰なのかといえば知的障害者や精神障害者、ホームレスといった社会的弱者たちなのだ」という、上述の記述よりも幾分強い調子で論述を行っている（芹沢一也『暴走するセキュリティ』（新書y）洋泉社2009年142ページ）。
- 2 データを参照した期間は、2017年8月17日より同月21日までである。
- 3 日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館国語辞典編集部（編）『日本国語大辞典 第二版 第十一巻』小学館2001年862ページ。
- 4 『日本国語大辞典 第二版 第十一巻』（前掲）859ページ。
- 5 ちなみに、2002年及び2003年については、同じく時事関係の参考資料である、『情報・知識 imidas』集英社2002年、2003年と、『朝日現代用語 知恵蔵』朝日新聞社2002年、2003年も書庫で確認した。いずれにも「不審者」という見出し語は見当たらなかった。
- 6 2018年1月5日閲覧。
- 7 例えば、一時話題となった赤瀬川原平『新解さんの謎』（文春文庫）文藝

- 春秋 1999 年を参照のこと。
- 8 山田忠雄, 柴田武 (他編)『新明解国語辞典 第七版』三省堂 2012 年 1323 ページ。
 - 9 2018 年 1 月 8 日閲覧。
 - 10 「不審者情報の分析結果」(千葉県警察 web ページ)。http://www.police.pref.chiba.jp/seisoka/safe-life_protect-child_00.html) (2018 年 1 月 7 日閲覧)。
 - 11 「不審者情報マップ」(真岡市 web ページ)。https://www.city.moka.tochigi.jp/7,5492,13,405.html) (2018 年 1 月 7 日閲覧)。
 - 12 以下, 本稿において示すデータ数は, 個別のデータを見て清水がカウントしたものである。データの性質上, 明らかに同一人物であることが容易にうかがわれるものについても, 「不審者」に関するデータであることからあえて同一人物扱いはせず, それぞれ 1 件 (人) としてカウントした。項目により, 条件に漏れるものを省いたことなどから, 合計のデータ数に異同が発生する。無論, データの数え誤りの責任は清水が負う。
 - 13 午前 0 時 00 分より午前 2 時 59 分までを含む。以下も同様。
 - 14 多くのデータでは, 幅のある表記がなされている。幅が 10 歳を超えるデータもいくつか見受けられたが, この表には中央値が属する年代に含ませた。
 - 15 元データに幅がある表記の場合, 中央値をもととした。
 - 16 http://www.stat.go.jp/data/nihon/back15/zuhyou/n152100200.xls (2018 年 1 月 8 日閲覧)
 - 17 服装の少なくとも一部より, スーツや学校制服とは異なる服装全般を含めた。なお, 作業服については, 職場によっては正規の服装であり, 位置づけに困ったが, 便宜的にここに含めた。
 - 18 異性装, 全裸, 半裸をはじめ, 状況を考えて奇異であると判断される装いの者をここに含めた。
 - 19 2016 年 6 月における, 愛知県内の「市町村別外国人住民数」(http://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/227423.xls, 愛知県 web ページに掲載, 2018 年 1 月 8 日閲覧) の全市町村合計の外国人比を見ると, 2.90%となっている。
 - 20 「帽子」には, 原付・オートバイ等使用者の装着するヘルメットを含む。

- 21 身体に触る、女性のスカートをめくるような事案の他、叩く、つかむなどの事案も含んでいる。
- 22 1月13日津島警察署発信。
- 23 1月16日瑞穂警察署発信。
- 24 4月9日犬山警察署配信。
- 25 4月28日豊田警察署配信。
- 26 4月29日緑警察署配信。
- 27 7月4日安城警察署配信。
- 28 7月20日瑞穂警察署配信。
- 29 7月21日安城警察署配信。
- 30 7月21日豊田警察署配信。
- 31 7月29日千種警察署配信。
- 32 7月20日中村警察署配信。
- 33 10月21日豊橋警察署配信。
- 34 10月22日名東警察署配信。
- 35 10月29日豊田警察署配信。
- 36 10月31日守山警察署配信。
- 37 今回調べたデータ中、おそらくこのたぐいの服装を指すと考えられる表現としては、「浮浪者風」というものが3例（4月9日夕方に、30～40歳くらいの男性が帰宅途中の女性に「名前を教えてください」と声をかけた事案；5月22日昼過ぎに、年齢不詳の男性が、帰宅途中の児童に対して下半身を露出した事案；7月8日午後、60～70歳くらいの男性が公園で遊ぶ子供にナイフとハサミとを向けた事案）のみ見出された。
- 38 詳しくは、芹沢一也『ホラーハウス社会』（講談社＋α新書）講談社2006年の、特に191～218ページを参照のこと。
- 39 参考として、信頼性についての検証はしていないが、統計データを紹介する、おそらくは個人運営のwebサイトである「統計ラボ」のページの1つである「女性の比率が高い職業」（https://toukei-labo.info/13_job/13_job2.html, 2018年1月8日閲覧）によると、「幼稚園教員」はランキング第5位で女性比94%、「小学校教員」はランキング20位で女性比61.5%と、かなり女性比の高い部類の職業であるといえる（もとデータは、平成27年

- 度の総務省統計局の国勢調査によるとある)。もともと性別構成上、被害者となり得る女性がこれらの職業に多いこと、また純粋に職業として見ても、特に被害への配慮が必要な児童を日々預かることを内容としていることから、幼稚園及び小学校教員の皆さんのコメントには、非常に学ぶ点が大きい。
- 40 現代社会における男性の「生きづらさ」に関する近年の日本語で読める文献としては、例えばフィリップ・ジンバルドー、ニキータ・クーロン『男子劣化社会』晶文社 2017 年を参照されたい。
- 41 しかも、彼らの「罪」を確認し、彼らの身柄を隔離するためには高額な租税からの費用負担が伴う。この点については、中島隆信『刑務所の経済学』PHP 研究所 2011 年の、特に第 3 章と第 4 章を参照されたい。
- 42 この部分の記述は、犯罪原因論の 1 つとしての「ラベリング理論」の考え方に立脚したものである。ラベリング理論については、例えば守山正、小林寿一（編著）『ビギナーズ犯罪学』成文堂 142～152 ページ（朴元奎氏執筆部分）を参照されたい。